



# 四季 ~四中の季節~

教育目標 ●自分で考え進んで実践する人間 ●公共心に富み情操豊かな人間  
●勤労を尊び責任を重んじる人間 ●健康でたくましい人間

## 「いじめ」について考える

校長 関 勝 志

11月は「ふれあい月間」でした。都内のすべての小学校、中学校、高等学校が、いじめや暴力を防止するための強調月間として取り組みました。子どもたちには、いじめで困っている人はいないか、アンケートに答えてもらいました。残念ですが、四中にもいじめはあります。その都度、深刻な問題に発展しないよう、生徒だけでなく、保護者も交えて相談したり、指導したりしています。多くのケースは、本人がいじめとは思わずに言ってしまった言葉や何も考えずにとった行動が原因だったと思います。でも結果として、相手の心を傷つけてしまったことは事実です。

11月29日(金)に、弁護士による「いじめ防止の授業」を実施しました。弁護士の佐藤香代先生には、いじめを多面的な見方(法律や人権、心と体への影響、将来の生き方)から、また、多角的な理解(被害者、加害者、傍観者の立場)をもとに、分かりやすい言葉を使ってお話しいただきました。子どもたちは、いじめについて正しく理解するとともに、いじめの被害者や加害者や傍観者になってしまったときに、またならないためにどうすればいいのか、しっかり考えることができました。

いじめ防止対策推進法では「心や体に苦痛を感じているものをいじめ」と定義していますが、相手が苦痛を感じているかどうか、本当の気持ちを知るのには容易でないこともあります。顔では笑っていても心では泣いているのかもしれない。また、相手が苦痛を感じていなければ何をしてもいいわけでもありません。ですから、佐藤先生がお話しされていた「人権」、お互いの「自分らしく生きる権利」を尊重するような言葉や行動を選択することが大切であると思います。

授業の後、佐藤先生は、子どもたちの話を聞く態度や表情、質問に、とても感心されていました。私も同感です。子どもたちの感想文(抜粋)を紹介します。

振り返りアンケート(質問項目)	あてはまる	ややあてはまる
いじめが人権を侵害するものであることを理解できた。	93.2%	6.4%
いじめが心や体の成長に悪い影響を与え、時には命の危険にも発展することを理解できた。	94.3%	5.0%
「いじめを絶対にしない、させない、許さない」という意識が高まった。	85.8%	12.1%

- 小学校のときにいじめられていた子が、例に出てきたような感じで、もう少しなんかできたんじゃないのかと思った。
- 無意識に自分が言っていることや、行動が相手を傷つけているかもしれないから、自分の言葉や、行動に責任を持とうと思いました。
- いじめられている人を見ても私は直接介入できる勇気は持ってないと思うから傍観者になってしまうけど、加害者側の傍観者ではなく、少しでも陰からでも助けられる傍観者になろうと思った。
- いまその人はどのくらい悲しいのか、苦しいのかがやる側からは見えないからやめることができないのだろうなと思った。
- 前までいじめをしてる人はいじめられても仕方ないと思ってたけど今日のいじめ防止授業を聞いて、いじめをされたからやり返していいってわけじゃないって気づくことができた。
- 私はけっこう友達をからかっていたりしていることがあって、相手が本当に嫌な思いをしていないか聞いて、気をつけながら話していきたい。
- なぜいじめたくなるのかや、いじめられている人・いじめている人の気持ち、そして、いじめを見る傍観者にでもできるアクションを知れて、将来のためになった。
- 今までは、いじめをしている人を見ていたら見てないふりをしていたけど、これからは止めることができなくてもその子の支えになれるようにしたいと思いました。
- 鹿川くんの実話を聞いてみて、「最後の手紙に僕が消えていじめがなくならなかったら意味がないじゃないか」と言っていて、泣きそうになりました。
- いじめたくなる気持ちもあっておかしいものではないのだとわかった。大事なものはその気持ちをどの方向にもっていくかだと思った。
- 自分は絶対にいじめられてないし、いじめていないと思っていたけど、どちらの場合でも自分に当てはまってしまうことがいくつもあった。もう一度自分の生活を振り返って見ないといけないと思った。
- 改めて、周りの友達の様子を見て、寄り添ってあげることが大事だと思いました。今後も友達との相談にのるように心がけたいと思いました。
- 傍観者が勇気を出せばいじめを終わらせることができる可能性があるということも感じた。もし自分がそのような状況にあったら、勇気を出したいと思う。
- いじめは自分の学校にないと思っていたが、いじりはちらほら見かける。そのような人たちがどう感じているかはわからないけど、とにかく見過ごしているのは良くないと思った。

## ■厳しさの変化■

副校長 池上 大輔

近年、教育やスポーツの現場では、体罰や叱責などが見直され、指導者側と生徒・選手側の両方にその認識は定着してきました。より良く時代は変化してきたと感じます。

しかし、すべてが良い方向に改善され、その結果、生徒・選手のスキルや人間性が向上しているのかというと、感じることはありません。そんな時、元メジャーリーガーのイチロー氏が高校生の指導を行った時のミーティングでの話を聞いて、今気づくべき大事なことではないかと思ったので紹介します。

イチロー氏は、学生野球を取り巻く指導の環境の変化について、以下のように語っていました。

「今の時代、指導する側が厳しくできなくなって、何年くらいなるかな。僕が初めて高校野球の指導にいったのが2020年の秋、智弁和歌山だね。このとき既に智弁の中谷監督もそんなこと言ってた。なかなか難しい、厳しくするのはと。(中略)

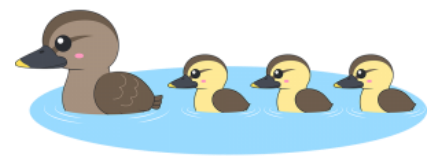
でも、自分たちで厳しくするしかないんですよ。ある時代まではね、遊んでいても勝手に監督・コーチが厳しいから、全然できないやつがあるところまでは上がってこられた。やんなきゃしょうがなくなるからね。でも、今は全然できない子は上げてもらえないから。上がってこられなくなっちゃう。それ、自分でやらなきゃ。なかなかこれは大変だ。」と、様変わりした現代においては、選手がより自身を律することが求められる過酷さを指摘していました。

また、「自分を導くのは難しい。でも、結局自分しかいなくなっちゃう。だってそういう存在いないでしょ。ということは自分に厳しくせざるをえない。自分を高めていこうと思ったら、自分に厳しくできる人間も中にはいますよ。そうするとどんどん自分を厳しい方にもっていく。厳しい道を選ぶ。それは若いうちにしかできないこと。でもそれを重ねていったら、大変で挫折することもあると思うけど、そうなれたらめっちゃ強くなる。でも、導いてくれる人がいないと楽な方に行くでしょ。自分に甘えが出て、結局苦労するのは自分。厳しくできる人間と自分に甘い人間で、どんどん差が出てくる。厳しくできる人間はどんどん求めていくわけだから、うまくなったり強くなったりできる。求めてくる人に対しては、求められる側もそれはできる。でも、求めてくれなかったらできないから。でも、自分を甘やかすことはいくらでも今できちゃう。そうやってほしくない。いずれ苦しむ日が来るから。大人になって、社会に出てからも必ず来る。できるだけ自分を律して厳しくする。」と、自らを追い込み挫折も味わって強くなることを説いていました。

私(副校長)自身も、学生時代の環境と現在の環境を比べると、「厳しさ」というものがはっきり変わったと感じます。周囲の人に厳しく叱咤激励されながら成長した時代から、イチロー氏が伝える「自分で自分を厳しく」する中で成長する時代へと。親や学校の先生は応援してくれますが、自分の甘さを強く律するのは自分しかいません。今のこどもたちは、その自覚をもって成長していく世代なのだと思います。

## ♥小学生の四中職場体験・学校見学♥

11月は小学校の体験学習の訪問が多くありました。小平四小5年生2名と小平十小6年生3名の職業体験、また小平十小の2年生10名の地域学習の学校見学で、四中を訪問していただきました。とても立派な挨拶ができ、一生懸命取り組んでくれました。廊下ですれ違う生徒たちも笑顔で接してくれて、小学生の「四中ってどんな学校?」という質問にも、「みんな明るくて元気な学校だよ」と優しく答えてくれました。2年生10名が訪問した日には、カルガモ池を見学に行ったときにカルガモ4羽が泳いでいましたが、大騒ぎの小学生にびっくりして大きく羽ばたいて行ってしまいました。これにもまた大興奮で、カルガモたちがよいサプライズの演出をしてくれました。



## ■生徒の活躍■

**卓球部** 第67回東京都中学校新人卓球大会 シングルス出場

(男子) 2C 佐田仁一朗	2D 長山 慶悟	2E 山田 悠哉
(女子) 2B 松田 千咲	2C 宮原 優鈴	2D 中村 空
2D 吉田 千紘	2D 山本 亜未	2E 門馬 美空

小平市秋季市民卓球大会

(女子団体) 優勝 Aチーム

(女子シングルス) 第3位 2D 吉田 千紘 第5位 2B 松田 千咲

## ■1月の主な行事■

8日 始業式 安全指導	16日 中央委員会	22日 私立高校推薦入試
10日 移動教室前検診(1)	17日 避難訓練	23日~25日 移動教室(1)
14日 専門委員会	20日 生徒会朝礼	27日 1年生振替休業日

※12月29日(日)~1月3日(金)までは学校閉鎖期間となります。